

心豊かな「すてきさん」づくり ～ えがお・げんき・あいさつ ～
かंगाえ、やってみる子 いたわり、助け合う子 せいいっぱいがんばる子 いきいきと元気な子



陽に映える園庭の若葉桜

開成町立開成幼稚園

たいよう通信

第1号

発行日：令和7年4月15日（火）

発行者：園長 杉山 孝史

新年度始まる

4月7日（月）、園庭の桜が美しく咲き誇る中、一学年ずつ進級した子どもたちがお母さんやお父さんに連れられて登園してきました。およそ2週間ぶりの再会でしたが、どの子も元気そうです。中には、一段と背の伸びた子もいました。「やったあ、〇〇ちゃんと一緒のクラスだ」「嬉しい、担任は〇〇先生だ」など、受付で新しいクラス編制表を手にした子どもたちの顔から笑顔がこぼれました。久しぶりに友達や先生と再会し、新しい仲間と過ごす園生活に大きな期待を寄せていることが、子どもたちの様子から伺えました。



※※ 始業式 ※※

4月から新たに入園した年中と年長の4名の子加わり、1学期始業式を行いました。この中で、挨拶のできる子になってほしいとの願いから、子どもたちに1冊の本を読み聞かせしました。「あいさつって たのしい」（小学館）という題名の絵本で、挨拶を交わすたびに、友達がどんどん増えていくという作品です。式の最後に、今年度の教育目標でもある「えがお」「げんき」そして「あいさつ」の3つを大切にしながら「すてきさん」を目指すことを、言葉と手拍子で確認し合いました。



※※ 入園式 ※※

4月9日（水）、第56回入園式を行いました。可愛らしい年少児40名が入園してきました。自分の名前を呼ばれたら元気よく返事をしたり、年長児と一緒に「さんぽ」の歌を歌ったりなど、春の日差しのようにとても和やかな式になりました。年少児が一日も早く幼稚園に慣れ、楽しく元気に園生活を送ることができるように全職員で支えていきたいと思ひます。ご家庭のご協力をお願いします。



目指すは『すてきさん』づくり

開成幼稚園の保育・教育活動の土台にあたるものが「令和7年度 開成幼稚園教育構想」です。4月最初の職員会議において、この中に記された「教育目標」や「めざすこども像」などを丁寧に確認し合いました。

昨年度に引き続き、今年度の教育目標を『心豊かな「すてきさん」づくり』とします。また、喜びや幸せの表れである「えがお」、心身ともに健康を意味する「げんき」、そして、コミュニケーションの第一歩である「あいさつ」の3つをサブテーマに位置付けます。

家庭や地域の皆さまの力をお借りしながら、その子らしさ、その子の良さがキラリと輝く「すてきさん」を育ててまいります。本年度も、幼稚園へのご支援とご協力をよろしくお願いしします。

《教育目標》 心豊かな「すてきさん」づくり
～えがお・げんき・あいさつ～

《研究テーマ》 幼児が共に育ち合うための環境
構成や援助の工夫を考える

《職員モットー》 チーム開成幼稚園
「One for all, all for one.」
(一人はみんなのために、みんなは一人のために)

《めざすこども像》 心豊かな「すてきさん」

《か》 かंगाえ、やってみる子 (知)

《い》 いたわり、助け合う子 (情)

《せ》 せいいっぱいがんばる子 (意)

《い》 いきいきと元気な子 (体)

《めざす教師像》 人間力・教師力の向上

- 個の良さを引き出し、認め励ます教師
- 感動・共感・挨拶のできる人間性豊かな教師
- 保護者・地域の人と積極的にかかわり、信頼される教師
- 親身になって子育て相談に応じる教師
- 子どもの健康と安全に配慮できる教師
- 実践をととして互いの資質を高め合う教師

※「令和7年度開成幼稚園職員一覧」については、個人情報保護の観点から不掲載といたします。



幼稚園の調理場で作った出来立てほやほやの給食を子どもたちに提供しています。



幼稚園で所有する2台のバスに乗って園外保育に出かけます。



運動会「げんきもりもりフェスティバル」では、思い切り走ったり踊ったりして楽しめます。



わくわくタイムでは、元気に遊ぶ子どもたちの歓声が園庭いっぱいに響き渡ります。

「たいよう通信」について

明るく元気な開成幼稚園の子どもたちをイメージして本紙のタイトルを「たいよう通信」としました。園歌にある「ぼくも わたしも 太陽なんだ」という歌詞からの引用です。園の話題をギュッと凝縮して、ルクミーで配信します。お時間のある時にお目通しください。



トンカツ

▼4月18日（金）から給食が始まります。

給食は、子どもたちにとって園生活の楽しみの一つです。給食は、子どもたちの成長に必要な栄養を補うだけでなく、食事のマナーや食文化、友達とのコミュニケーション力、食材の生産過程などを学ぶ機会にもなっています。先日、「第1回園内給食委員会」を開き、より良い給食指導を目指して指導のポイントを職員で共通理解しました。▼小学生の頃の私は、どちらかというと給食の時間が苦痛でした。今でこそ食べられるようになりましたが、私はお肉が大の苦手でした。当時の給食指導は、全部食べ終わるまで昼休みにはいけないという厳しいものでした。本来食事というものには、自分に合った量を栄養バランス良くいただくことが大事であり、無理強いはいらないというのがあるべき姿だと思うのですが。

▼ある日、恐怖の献立に目が点になりました。何とその日のメインディッシュはトンカツでした。ワラジ級のサイズです。絶対に食べられません。学校を休みたくなりました。でも、ずる休みは許さないというのが我が家の方針でした。どうしたら食べなくて済むのか、必死に考えました。思い浮かんだ秘策は、わざと床にトンカツを落とすことでした。▼トンカツを箸でつかんで後ろの友達に話し掛けるふりをして床にポトリ。作戦は見事に成功しました。「先生、これこれこうで床にトンカツを落としました。食べなくて良いですか」担任の先生はいつも優しい先生でした。きっと、「良いですよ、次から気をつけてね」という思いやりのある言葉が返ってくると思っていた。ところが、その予想は見事に外れました。「杉山君、大丈夫、衣を剥げば中のお肉はきれいだから食べられます」何という残酷な言葉でしょう。お肉が苦手でも、衣と一緒に何とかが食べられるという人もいますはずです。衣の剥がれたソーテー状態の塊をどうして食べることができのでしょうか。その後の展開はご想像のとおりです。昼休みが終わったところで、許してもらえたと記憶しています。しかし、中学校の時に転機が訪れます。↓次号に続く↓

